

目指すべき日本の社会

日本の社会は、長引く不景気で、将来に対する不安感が漂い、日本人の元気が失われております。特に、就職難に悩む若年層の失望感は大いといえます。さらに、巨額の財政赤字や年金の負担を考えると、若者が元気を出しにくい社会であるといえます。

人口減少の傾向について、移民による人口増を図ろうとする意見もあるようですが、このような考えは適切なものでしょうか。年金の担い手を外国人に求めることは、将来的にその外国人の年金を日本人が負担することになります。その場しのぎの解決や問題の先送りは許されない状況です。

自分だけよければ、他人はどうでもよいと考える自己中心の生き方では、問題を解決できません。問題を日本人自身が解決するためには、日本人が協力し合う気持ちを持つことが重要であり、そのためには、個人は社会の一員であるという意識が必要です。

日本の将来を日本はロボット産業の先進国であり、今後さらに発展していきます。これからの日本社会では、ロボットが労働力の主要な担い手になります。日本の社会を支える労働力は、外国人では無くロボットになると考えられます。日本人は、多機能で使いやすいロボットの開発に努力する必要があります。

このようにして技術の結晶であるロボット技術は、日本人の大切な知的財産であり、ロボットは日本人の共有財産とも言えるものです。

ロボットを所有する人だけが経済的に恵まれる社会は、ある意味で公正な社会とはいえません。ロボットの独占が、富の独占をもたらす社会は、健全な人間社会とはいえません。

社会的な知的財産であるロボットから得られる恩恵に、国民全体があずかれる社会が望ましいといえます。人間社会のために働く知能ロボットを、国民が協力して作り出していくような社会が望まれます。

ロボットが作り出す豊かな社会で、人間がお互いを尊敬しあい、大切に作る人間味あふれる文化的な社会を目指す必要があります。

2012年5月2日
(有)中野情報技術研究所
中野 敬三 記